

赤谷プロジェクト 近況報告



今年生まれたクマタカの幼鳥

猛禽類調査について

赤谷プロジェクトでは、健全な森林生態系の指標動物として、食物連鎖の頂点に立つ大型猛禽類のイヌワシやクマタカに着目し、その生態を地元の方、サポーター、(財)日本自然保護協会、赤谷センター職員が協力し合いながら継続的に調査しております。

イヌワシは、主に北半球のシベリア、アラスカ、ロッキー山脈等の北半球高緯度の草原や低灌木地帯に生息しています。一方、クマタカはインド南西部からインドシナ半島、中国、日本等の森林地帯に生息しています。

「赤谷の森」のように、同地域に北方系・草原性のイヌワシと南方系・森林性のクマタカが生息している例は世界的に珍しく、大変貴重なエリアです。

これまでの調査から、どのような環境を好んで営巣するかなど一部については判明しつつあるものの、行動範囲の広いイヌワシの狩場など、まだまだ十分なデータが得られていない実態です。

今後、このような調査を活用し、イヌワシやクマタカが生息できる森づくりを通じて、生物多様性の復元を図ることを考えています。

自然環境モニタリング会議の開催

10月9日(金)、平成21年度第1回自然環境モニタリング会議が開催されました。自然環境モニタリング会議は、植生管理や猛禽類などの分野の専門家と赤谷プロジェクト地域



各ワーキンググループの取組を議論

協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局により構成され、植生管理などの各ワーキンググループを統括し、赤谷プロジェクトの活動について、科学的な立場から助言を行っています。

今回は、これまでの各ワーキンググループの成果、短期目標、長期目標を再確認し、今年度の進捗状況を報告しました。

また、次期地域管理経営計画等へこれまでの赤谷プロジェクトの成果や地元住民の意見反映を目的として、「赤谷の森構想文書(仮称)」について検討を進めました。今後、地元住民へ「赤谷の森」の現状や森林計画制度について説明会の開催などを予定しています。

JICA海外研修生の受け入れ

10月20日(火)森林技術総合研修所が実施している海外技術研修「持



三国街道の紅葉も見事



お疲れさまでした。

続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」の「参加型森林経営手法」の現地講義として、アフリカ、南米、アジアなどの研修生11名が「赤谷の森」を訪れました。研修生の皆さんは、母国に戻って森林・林業分野のリーダーとなる方々です。

当日は、「いきもの村」や旧猿ヶ京小学校において、赤谷プロジェクトの経緯や取組、さらには、三国街道沿いのブナ林で赤谷プロジェクトの目指す森林のイメージなどを解説しました。

三国街道は紅葉も見事で、研修生からは感動の声が上がっていました。母国に帰っても「赤谷の森」を思い出していただきたいと思います。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)